令和7年 9月号

地域おこし協力隊新聞

阿智村産業振興公社
熊谷　萌

猛暑が続く今年の夏、みなさまいかがお過ごしでしたでしょうか。私は紫外線由来のお肌トラブルや諸々の健康被害が怖くて「今年こそは夏でも美白」をモットーに日焼け止めをお肌に塗り込んでいました。しかし、例年通りの少し焦げた小麦色の肌になってしまいました。塗ったからこそ例年通りの小麦肌で済んだのか、はたまた不器用なのに適当に塗ったから何の意味もなかったのか。真相は未だわかりません。ですが自分自身の健康を気にして行動を起こせた点に関しては誇りたいと思います。

こうして常日頃からちいさくても多くのハードルを飛び越えていくことで、新たな挑戦の機会を増やし、いつか大きなハードルができたときにも果敢に挑戦できるようになれたら嬉しいです。

さて、今こうして振り返ってみると今年の夏は今まで以上に荒れた天候だったと思います。

気温が35度を超え、肌がジリジリと焼けるような痛みを伴う暑い日になるのかと思えばバケツを一気に引っくり返したような土砂降りが降ったり直ぐに晴れたりと本当にじゃじゃ馬のようでした。

普段の生活だけでも本当に辛かったので農業を営む方は本当に地獄のような期間だったのではないでしょうか。例年以上に暑い気温、どんどん強くなる日照り、水分不足、畑がぐちゃぐちゃになってしまうほどの長雨、めちゃくちゃ暑いのになぜか枯れずに元気に伸びる雑草、などなど想像するだけで頭が痛くなりそうです。そんな環境の中でもお野菜を育ててくれてありがとうございました。

最近はなんだか秋の雰囲気を伴う涼しい風が吹いて気持ちがいいときがあります。季節の変わり目は心身の調子が悪くなってしまうので手洗いうがい以外にも保湿、保温、質の良い睡眠を大事にしたいですね。これから来る寒さに備えて頑張っていきたいですね。

建設農林課
小田　智

阿智村の皆様、こんにちは。

今回は、浪合保育園の園児たちに取り組んでもらった「木育」について、ご報告いたします。

「木育」って何?と思われた方がほとんどだと思いますので、まずは「木育」についてご説明させていただきます。「木育」は、北海道庁が道民と一緒になって検討をすすめた「木育」プロジェクト(平成一六年九月に発足)より提案された教育概念です。その取組は「すべての人びとが、木とふれあい、木に学び、木と生きる」と定義され、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことを目指します(木育推進プロジェクトチーム報告書より)。

園児たちのための木育プログラムは、次の点を重視して作成しました。

①身近な木にふれる。

②木を始めとする植物には、様々な色、形、特徴、匂いがあることに気づく。

③学んだことを家族に伝えることで表現力を培う。

具体的には、山椒を対象に、葉をたたくことで香りにどんな変化が生じるか、実をつぶした場合は、前後で香りにどんな違いがあるかをそれぞれ感じてみること、採取した葉と実を持ち帰って、家族に学んだことを伝えてもらうという内容を中心に木育プログラムを実施しました。

当日は、晴天に恵まれ、木立のかし宿あさひの敷地内の林にて、園児たちは元気いっぱいにプログラムに取り組んでくれました。木にふれる自由時間では、木をたたいて音の違いを感じる子、倒れた木を巧みに遊具にする子など、園児たちの自由な発想と行動から学ぶことも多く、今後の木育活動に活かしていきたいと思いました。

阿智村産業振興公社
山田正剛

皆様こんにちは。農業研修に励んでおります、山田です。

まだまだ、うだるような暑さが続き、じりじりと太陽が照りつける今日この頃。研修では、きゅうりが主役の季節を迎えました。みずみずしい緑の実が日に日に大きくなるこの時期は、一年で最も活気に満ち、そして最も忙しい毎日が続きます。

私の一日は、まだ涼しい朝、きゅうりを収穫することから始まります。その後は、日に日に伸びていくツルをネットに沿って導く「誘引」や、風通しを良くして病気を防ぐために古い葉を取り除く「葉かき」といった作業が待っています。これらは一見すると単調な繰り返しに思えるかもしれません。しかし、毎日きゅうりに向き合い、観察するうちに、きゅうりや、植物に対する理解が深まってきたと感じています。

もちろん、教科書通りにはいかないのが農業の難しさです。連日の収穫でたくさんの実をつけてくれた株にも、少しずつ疲れが見え始めています。曲がったり、先が細くなったりしたいびつな実が増えたり、少し目を離した隙にうどんこ病の白い斑点や、小さな虫の姿を見つけたりすることもあります。その度に、自分の観察眼や知識、そして対応の遅れを痛感させられます。

植物は素直です。手をかければかけた分だけ応えようとしてくれますが、基本を疎かにすれば、その結果はすぐさま実に現れます。この経験を通じて、日々の観察と地道な作業を一つひとつ丁寧に積み重ねることこそが、美味しいきゅうりを育てるための唯一の道なのだと、改めて心に刻んでいます。

阿智村産業振興公社
松浦未洋

今年も残暑厳しく、暑い日が続くとのこと。引き続き熱中症には十分お気を付けください。

私もこの夏の作業では、幾度となく軽度の熱中症症状に陥りながらも、周りの方たちに支えていただき何とか持ちこたえているような状況です。

主に行っているキュウリの栽培については、枝葉の剪定・管理や病害虫の防除などを行いましたが、適宜、適度に手をかけることがとても難しく、葉を欠きすぎて曲がりが多くなったり、収穫を見逃し巨大なキュウリ作ってしまったり、アブラムシや病気の兆候を見逃したり…。

「適宜、適切に」が難しく、仕事の効率としても、植物の状態にしても、「手間暇かけて」が、必ずしも良いものではなく、悪影響を及ぼしている状況が多々ありました。

作業に必死で、植物を観ていないのだなとつくづく感じました。

しっかりと経験として積み上げていきたいと思います。

☆7月にセミの抜け殻探しイベントに参加させていただきました。

親子連れが多い中、おじさんが童心に帰って頑張って探したのですが、見つけた抜け殻の数は皆さんに及ばず少な目でした。

3種類のセミの抜け殻を見つけることができ、一番多く取れたのがヒグラシの抜け殻でした。

阿智村では、ミンミンゼミの夏の太陽の日差しの感じや、ヒグラシの夕涼みの風を感じるような風情のある声で、聴いていても心地よさを感じます。

このあたりの生き物のことが知れた良い体験になりました。

あとイベントで講師の先生から、この辺りにはヤモリが生息していないというお話を伺いました。この辺の方に聞いても確かにヤモリを見たことがないとのこと。同じ爬虫類のトカゲやカナヘビは見かけるのに。

何とも不思議で興味深いです。